

| | | | | |
|-------------------------|--|------|--|----------------------------------|
| 1. 科目名 (単位数) | アジア文化論 (2 単位) | | 3. 科目番号 | GELA1337 GELA1355 GELA1137 |
| 2. 授業担当教員 | 越野 香子 | | 5. 開講学期 | 秋期 |
| 4. 授業形態 | 講義、ペアワーク、グループ学習、グループ発表 | | | |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | 全学部・全学年対象科目 | | | |
| 7. 講義概要 | 21 世紀はアジアの時代ともいわれ、アジア諸国とその文化に注目が集まっている。アジア文化圏は、アセアンに代表される東南アジア諸国から、中央アジアや西アジアまでを含む広大な範囲を含んでいる。本講義では、まず世界におけるアジア文化圏の位置づけを考える。次に、現在注目を集めている東南アジア諸国連合(ASEAN)を中心に様々なアジア文化の特色を考察していく。また興味のあるアジア文化について調べ、個人ごとまたはグループごとで調査内容を発表することとする。 | | | |
| 8. 学習目標 | 1. 世界の様々な文化圏の中のアジア文化圏の位置づけと特色について理解し説明できる。 2. アジア文化圏の中の東南アジア文化圏の位置づけと特色を理解し説明できる。 3. 東南アジア文化圏以外の多様なアジア文化について理解し説明できる。 4. 興味のあるアジア文化の特色について調査を実施し異文化理解と自文化理解を深めることができる。 | | | |
| 9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題 | 1. 事前学習と事後学習課題については、初回の講義で説明する。 2. 全てのグループが発表を割り当てられ、その準備に向けて出される課題も評価の対象とする。 3. 課題については、授業中にテーマについて適宜説明する。 | | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | 【教科書】 1. 池上彰著『池上彰の世界の見方：東南アジア』小学館、2019。 2. 池上彰著『池上彰の世界の見方：中国・香港・台湾』小学館、2018。 | | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | ○成績評価の規準(学習目標) 1. 世界の様々な文化圏の中のアジア文化圏の位置づけと特色について理解し説明できる。 2. アジア文化圏の中の東南アジア文化圏の位置づけと特色を理解し説明できる。 3. 東南アジア文化圏以外の多様なアジア文化について理解し説明できる。 4. 興味のあるアジア文化の特色について調査を実施し異文化理解と自文化理解を深めることができる。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する 1 授業への参加態度 総合点の 30% 2 試験 (小テスト・期末テスト・口頭発表試験 等) 総合点の 30% 3 提出課題 (レポート等) 総合点の 40% | | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | 1. シラバスを熟読し、講義の学習目標、成績評価等についてよく把握しておくこと。 2. iphone, smartphone, 携帯電話, その他通信機能のあるノートパソコンやタブレットの電源は切り、かばんの中にしまうこと。 3. 本学規定により、3/4 (4 回) 以上欠席すると単位の修得が認められないので留意しておくこと (遅延については、遅延証明書を当日又は次回講義までに担当教員に提出すること。遅延の累計回数が多い場合、遅延を認めない場合もあるため、注意すること)。 4. 成績総合評価の内、授業での積極的参加は比重が大きいため、分からないことは積極的に質問し、ディスカッションにも意欲を持って臨むことを勧める。 5. 不正行為への対応等について、本学は、「東京福祉大学・短期大学部 研究活動における不正行為への対応等に関する規程」を平成 26 年 12 月 4 日に制定しています。詳しくは、本学ホームページの大学紹介・研究活動のところを参照してください。文部科学省のガイドラインでは、「学生に対する研究倫理教育」を行うことが要請されているので、皆さんは、大学で自分の学習成果をレポートにしたり発表したりしていくうえでの倫理、つまり、守らなければならないことがあります。不正行為としては、1. 捏造(ねつぞう)、2. 改ざん、3. 盗用があります。不正行為については、適宜、処置がなされるので、これらについて十分に注意をして、勉学に臨んでください。 | | | |
| 13. オフィスアワー | 初回授業時に通知します。 | | | |
| 14. 授業展開及び授業内容 | | | | |
| 講義日程 | 授業内容 | 学習課題 | | |
| 第 1 回 | アジア文化圏の国々の世界での位置づけ。多様な「アジア」の国々・文化について | 事前学習 | アジア文化圏を構成する国々について各自調べておく。 | |
| | | 事後学習 | 講義で説明されたグループ発表について重要事項を確認しながら、形成されたグループで、担当する国について調査を始める。 | |
| 第 2 回 | 日本と ASEAN の歴史的関係 | 事前学習 | テキスト pp. 14~47 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。 | |
| | | 事後学習 | 発表担当グループから配布資料を基に、授業を振り返る傍ら、発表を控えている各担当グループは、今回発表したグループの参考になる点と改善すべき点をまとめ、自身の発表に備える。 | |
| 第 3 回 | 戦後の日本の経済成長と ASEAN との関係 | 事前学習 | テキスト pp. 47~61 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。 | |
| | | 事後学習 | 発表担当グループから配布資料を基に、授業を振り返る傍ら、発表を控えている各担当グループは、今回発表したグループの参考になる点と改善すべき点をまとめ、自身の発表に備える。 | |

| | | | |
|------|---------------------|------|--|
| 第4回 | ベトナム南北分断の歴史的背景 | 事前学習 | テキスト pp. 64～77 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。 |
| | | 事後学習 | まとめプリントで授業の振り返りを行う。 |
| 第5回 | ASEAN は共産主義への防波堤？) | 事前学習 | テキスト pp. 77～102 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。 |
| | | 事後学習 | 発表担当グループから配布資料を基に、授業を振り返る傍ら、発表を控えている各担当グループは、今回発表したグループの参考になる点と改善すべき点をまとめ、自身の発表に備える。 |
| 第6回 | シンガポールとマレーシアの関係 | 事前学習 | テキスト pp. 104～120 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。 |
| | | 事後学習 | まとめプリントで授業の振り返りを行う。 |
| 第7回 | マレーシアと Look East 政策 | 事前学習 | テキスト pp. 120～125 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。 |
| | | 事後学習 | 発表担当グループから配布資料を基に、授業を振り返る傍ら、発表を控えている各担当グループは、今回発表したグループの参考になる点と改善すべき点をまとめ、自身の発表に備える。 |
| 第8回 | インドネシアと東インド会社 | 事前学習 | テキスト pp. 128～146 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。 |
| | | 事後学習 | 発表担当グループから配布資料を基に、授業を振り返る傍ら、発表を控えている各担当グループは、今回発表したグループの参考になる点と改善すべき点をまとめ、自身の発表に備える。 |
| 第9回 | スカルノ大統領とスハルト大統領 | 事前学習 | テキスト pp. 146～162 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。 |
| | | 事後学習 | まとめプリントで授業の振り返りを行う。 |
| 第10回 | タイの歴史と社会性 | 事前学習 | テキスト pp. 164～179 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。 |
| | | 事後学習 | まとめプリントで授業の振り返りを行う。 |
| 第11回 | フィリピンの魅力 | 事前学習 | テキスト pp. 179～192 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。 |
| | | 事後学習 | まとめプリントで授業の振り返りを行う。 |
| 第12回 | ドゥエルテ大統領とフィリピン | 事前学習 | テキスト pp. 179～192 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。 |
| | | 事後学習 | まとめプリントで授業の振り返りを行う。 |
| 第13回 | カンボジアの歴史 | 事前学習 | テキスト pp. 194～210 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。 |
| | | 事後学習 | 発表担当グループから配布資料を基に、授業を振り返る傍ら、発表を控えている各担当グループは、今回発表したグループの参考になる点と改善すべき点をまとめ、自身の発表に備える。 |
| 第14回 | ミャンマーの歴史と社会 | 事前学習 | テキスト pp. 210～221 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。 |
| | | 事後学習 | 発表担当グループから配布資料を基に、授業を振り返る傍ら、発表を控えている各担当グループは、今回発表したグループの参考になる点と改善すべき点をまとめ、自身の発表に備える。 |
| 第15回 | ロヒンギャと国際社会 | 事前学習 | テキスト pp. 221～225 を読み、よく分からない単語や概念をリスト化し、授業で共有する準備をしておく。 |
| | | 事後学習 | アジア圏内の国家間の交流について分析し、今後の傾向と動向について考える。 |